

わが街・四日市で、脱原発を訴えるデモをよびかける！

福島の人びとの苦しみをみつめ、原発依存の生活を顧みよう！

今こそ脱原発・再生可能エネルギーの開発に舵をきるとき

9月11日（日）16時：市民公園での集会

16時30分：デモ出発

東電福島原発の事故発生後まもなく、東京で行われた若者たちのデモのなか、ある女性がこんなプラカードを掲げていました——「今まで原発に無関心でいてごめんなさい」。四日市でもいま脱原発のデモを！という私たちのよびかけは、若い世代のこんなにも率直で真摯な思いへの共感にはじまりました。

今なお収束に向かう見通しも立たない福島原発の事故は、避難地区の人びとが長年そこに生きてきた故郷を奪い、その外側に住む子どもたちにも戸外で元気に遊びまわることさえためらわせています。日本の広汎な地域でふつうの生活が一挙にこんなにも不安とめどないものになってしまったのは、放射線量にはここまでなら将来にわたって大丈夫という基準がないからです。私たちの子や孫に安心して手渡せるような原発の安全性はまったく保障されていないことを、私たちはまざまざと思い知らされました。

福島原発の事故についてもっとも責任を問われなければならないのは、もちろん、幾多の危険性の指摘を無視して、国策として原発を推進してきた政財界「原子力村」であることはいうまでもありません。けれども、私たちふつうの国民もまた、電力の安定供給こそが経済発展や便利な生活の基礎と考え、原発の「安全神話」をあえて信じようとしてきたのです。致命的な事故発生の可能性、ウランの採掘から廃棄物の処理にいたるまで原発運転につねにつきまとう被曝、高レベルの廃棄物の最終処分の不確かさ——こうした原発依存の高い代償に、私たちは耳を覆い眼を閉じてきました。

私たちは福島の人びとの果てしない苦しみをしっかりとみつめ、地震の多い日本の大地で危険をはらみながら稼働する 50基もの原発に依存するという、これまでの安穏な暮らしをかえりみて、思いきって、脱原発・自然エネルギーへの転換の方向に歩みはじめるべきです。今すぐ脱原発に舵をきれ！

この願いを、ここ四日市でも、市民の誰にもできるデモという行動に表現しましょう。女も男も、老いも若きも、一人でも多くご参加ください！

脱原発を訴える四日市市民の集い

□主催＝よびかけと準備：脱原発を訴える四日市市民の集い

代表：熊沢誠

奥村満富／小澤優子／熊沢誠／坂倉加代子／澤井余志郎／増田喜昭／三谷素子

□「脱原発、再生可能エネルギーへの転換」という、このビラのよびかけの趣旨に沿うかぎり、どなたのご参加も歓迎です。お知り合いの方々もお誘い合わせください！

□9月11日(日)16時から市民公園(市立博物館の東)で短い集会、その後、16時半頃から繁華街へパレード風のデモをはじめます。18時には解散の予定。次のコースです。

市民公園⇒ ふれあいモール⇒ 一番街⇒ 諏訪新道⇒ 本町プラザ⇒
中央道路北側(市役所前)⇒ 近鉄高架下⇒ 市民公園

□デモのかたち

- ・ご参加のみなさまはそれぞれに思いを伝えるプラカードやゼッケンなどを自由にご用意ください。
- ・服装もむろんご自由。奇抜なコスチュームも可。
- ・簡単な楽器・サウンドを用いての行進も可。気軽に楽しく参加できるパレード風のデモ行進にしましょう。

□この日こそその気持ちを込めて、雨天でも決行としましょう。

□解散後には、有志のみなさまで1時間ほどかんたんなコンパまたは会食の集いをもちましょう。